



地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊の隊員が交替でお届けします。第9回は食の黄金文化・奥州輝かせ隊の高橋史江さんです。

輝かせ隊の高橋です。今年1月の着任からこれまで市内のさまざまな場所を訪れ、たくさんの人たちにお会いすることができました。また食の黄金文化・奥州推進協議会の活動のお手伝いをする中でとても有意義な経験をさせてもらい感謝しています。

4月から北姉体の畑を借りて農作業をしています。所有者の農家さんや区長さんたちから作業の指導を受けたり、苗や種を頂いたりしながら、これまでにたくさんの作物を収穫しました。ジャガイモ、インゲン、エダマメ、トウモロコシ、ニンジン、ネギ、ピーマン、サトイモなど。

先日10月20日には、地域の皆さん約30人とサツマイモ掘りをしました。泥だらけになったり、虫がいたりするのを嫌がるかな？と心配していましたが、そこは皆さんさすが地元民！しっかり長靴や手袋を準備し、大人も子どもも楽しそうに収穫してくれました。最近では小学校でのサツマイモ掘りがないと何ったので、いい思い出になってくれたらと思います。

サツマイモ掘りの後は、ご近所のお母さんたちに芋の子汁やサツマイモご飯を作ってもらいみんなで

食べました。この芋の子汁に使ったサトイモやニンジン、ネギも同じ畑で採れたもの、ダイコンやゴボウはお隣の畑から頂いたものと、野菜は一切購入しませんでした。まさに究極の地産地消です。地域の皆さんにとっては、さほど珍しいことではないかもしれませんが、これが実現できる環境のありがたみを、私にまだ少し残っているヨソ者目線で感じています。

今後も大きなことでなくても地域の良さを発見していきたいと思います。情報発信しているSNSも、多くの皆さんに見ていただければ嬉しいです。



We support the **ilc**

希望のひかり 第72回

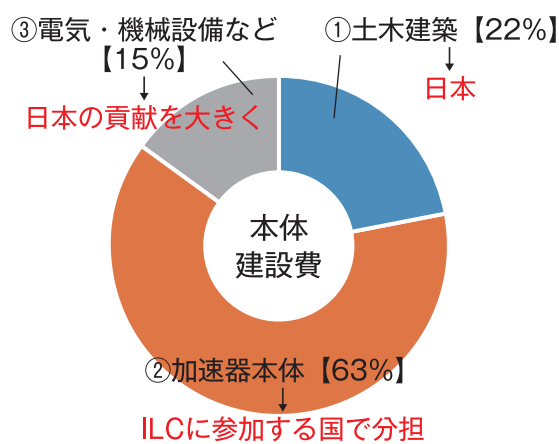
ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

KEKが経費の国際分担の在り方を提言

KEK（高エネルギー加速器研究機構）は10月2日、ILC計画の国際分担の在り方などを議論する国際ワーキンググループの報告書に基づき「ILCプロジェクト実施に関する提言」を公表しました。このワーキンググループは、建設経費・運転経費の国際分担についての考え方、ILCを実現するための組織の在り方などの検討を行うため、KEKが5月に設置したものです。ワーキンググループは議論をまとめた報告書をKEKに提出し、KEKは、その内容を吟味し「ILCプロジェクト実施に関する提言」として公表しました。

この提言は、今後のILCに関するさまざまな議論の場で活用され、国際的な経費分担や組織・運営の議論が深まることが期待されます。

本体建設費の国際分担～KEK提言イメージ～



本体建設費=5,830億円
(有識者会議での最大見込額。測定器・労務費除く)

●建設経費の分担

提言では、ILCの建設経費の考え方として、①土木建築、②加速器物品、③インフラ（電気・機械設備など）の大きく三つに分類し、①土木建築は「ホスト国である日本の責任」、②加速器物品は「ILC研究所に参加するメンバー国で分担」、③電気・機械設備などのインフラは「ホスト国の貢献が大きいことが期待される」としました。

●運転経費の分担

運転開始後に要する費用については「国際的に分担することを政府間で合意しておく

べき」としました。

●ILCを実現するための組織の在り方

各国の研究機関でILC準備研究所を設置することを提言。KEKはホスト研究所としてILC準備研究所の中核を担うとしました。準備研究所は政府間合意が成立した段階でILC研究所に移行し、同研究所は政府間合意に基づき国際研究所としてILC加速器の建設・運転において「長期的に責任を負う」としました。

ILC解説セミナーを奥州・一関で開催

東北ILC準備室は、10月5日、奥州市と一関市で住民向けの解説セミナーを開催しました。前沢ふれあいセンター会場では、市内外から市民25人が参加。放射線や放射能に重点を置いた解説がされました。

KEKの道園真一郎教授は、ILCの機器の中で最も放射性物質が生成される「ビームダンプ」について解説。ILCを20年間休まず稼働した場合、最大で100兆ベクレル

（0.3μSv）のトリチウムが蓄積するとし、施設内の密閉された保管容器で管理し、河川などには排水しないと説明しました。質疑応答では「専門家から『安全だ』『不安だ』と二つの見解が示されれば、不安の方にどうしても気持ちが傾いてしまう。安全第一でお願いしたい」といった意見が出されました。

本セミナーでの質問やその回答は、東北ILC準備室のホームページで公開される予定です。



ILCの安全性を解説する道園教授



日ごとに寒さが増してまいりましたが、いかがお過ごしですか。

10月12日から13日にかけて全国各地で多くの被害をもたらした大型の台風19号は、当市においてもリンゴ落下などの農作物被害、倒木や道路の破損、停電など大きな被害がありました。また、700人を超える方が地区センターなどに避難したほか、各種イベントが中止や日程変更を余儀なくされるなど、大きな影響が生じたところです。被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

10月24日、フランスカヌー連盟のブーノグラナ会長ほか関係者が、来年の東京五輪の事前キャンプ地選定のため、奥州いさわかヌー競技場を視察しました。フランスはリオ五輪においても複数のメダル

を獲得している強豪国です。会長からは、自然を生かした素晴らしいコースでキャンプ地となる可能性は十分にあるとの評価をいただきました。世界にも誇れるカヌー競技場をキャンプ地として利用してもらえよう、今後も働きかけてまいります。

10月18日、おうしゅう地産地消わくわく講演会を開催し、胆沢南都田出身でオイシックス・ラ・大地代表取締役会長の藤田和芳さんに講演していただきました。日本農業のグローバル化や有機野菜の流通の現状のほか、有機農業推進のための自身の活動について語られ、食について改めて考える機会となりました。

10月9日、水沢中の福田奈生さんが、アイスホッケー女子14歳以下日本代表のカナダ遠征参加の報告で、市役所を訪れました。カナダでの国際大会でゴールキーパーとして出場し、今後は来年のユースオリンピック出場を目指すとのこと。経験を積み重ね、さらなる活躍を願います。

奥州市長 小沢昌記